

1日 木曜

マルコ

11:1 さて、一行がエルサレムに近づき、オリブ山のふもとへのベテパゲとベタニアに来たとき、イエスはこう言って二人の弟子を遣わされた。

11:2 「向こうの村へ行きなさい。村に入るとすぐ、まだだれも乗ったことのない子ろばが、つながれているのに気がつくでしょう。それをほどこいて、引いて来なさい。」

11:3 もしだれかが、『なぜそんなことをするのか』と言ったら、『主がお入り用なのです。すぐ、またここにお返しします』と断言なさい。」

11:4 弟子たちは出かけて行き、表通りにある家の戸口に、子ろばがつかがれているのを見つけたので、それをほどこいた。

11:5 すると、そこに立っていた何人かが言った。「子ろばをほどこいたりして、どうするのにか。」

11:6 弟子たちが、イエスの言われたとおりに話すと、彼らは許してくれた。

11:7 それで、子ろばをイエスのところに引いて行き、自分たちの上着をその上に掛けた。

イエスはそれに乗られた。

11:8 すると、多くの人たちが自分たちの上着を道に敷き、ほかの人たちは葉の付いた枝を野から切ってきて敷いた。

11:9 そして、前を行く人たちも、後に続く人たちも叫んだ。「ホサナ。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。」

11:10 祝福あれ、われらの父ダビデの、来たるべき国に。ホサナ、いと高き所に。」

イエス様は永遠の主であり、永遠の王ですから、エルサレムに入るには、この世的には馬がふさわし



いということになるでしょう。実際多くの支配者は軍馬に乗ってさっそうと登場します。しかしイエス様は戦いによって支配する王でなく、人を愛し、人のために苦しむことを選んだ平和の王です。ですからその象徴としてろばに乗ってエルサレム入りしたのです。

この世の権力に惑わされないようにしましょう。それはやがて神様によって終わりとなるものです。むしろ平和を作り出すことによって、神様からの愛の力をもらいましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は赦おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

